

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	メゾスコピック神経回路から探る脳の情報処理基盤
領域代表者	能瀬 聡直（東京大学・大学院新領域創成科学研究科・教授）
研究期間	平成 22 年度～平成 26 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、分子遺伝学的手法と機能生理学的手法に情報回路理論を取り入れて、ミクロとマクロの中間規模の神経回路である「メゾ回路」の機能と役割について明らかにしようとする意欲的な試みである。ショウジョウバエと大脳皮質のメゾ回路の機能解明を中心に据え、複雑系の脳からメゾ回路の細胞形態・神経活動・入出力関係のダイナミクスを抽出、分析してこれをモデル化することができれば、他の研究領域の発展への波及効果のみならず、新興・融合領域の創成が期待できる。領域代表者の優れたリーダーシップのもと、若手研究者中心の研究組織体制が構成されており、研究領域が一体となって目標到達を目指している点も評価できる。一方で、研究対象が多岐にわたることから、研究者ごとに対象とするメゾ回路の大きさが異なる可能性があるため、「メゾ回路という機能単位の解明」という共通目標を共有しながら、本研究領域を推進していくことを期待する。</p>